

日中対照言語学会第41回大会（2019年度春季大会） のご案内

記

日時：2019年5月19日（日）午前9時20分より午後5時35分（予定時間）
会場：明海大学（千葉県浦安市明海1丁目明海大学浦安キャンパス）教学棟2206講義室
交通：新浦安駅より徒歩8分（新浦安駅までは、新木場駅よりJR京葉線・快速10分、東京駅よりJR京葉線・快速16分、西船橋駅よりJR武蔵野線8分）
参加費：1,000円（会員、非会員共通）

プログラム

受付（9：00－） 総合司会 椿 正美（中央大学）
大会開催校挨拶 安井 利一（明海大学学長） 9：20－9：30
開会の辞 加藤 晴子（東京外国語大学） 9：30－9：35
研究発表1. 日本語と中国語の指示詞に関する一考察
—「ア系」と“这”が対応する場合を中心に—
日下部 直美（星城大学） 9：35－10：05
研究発表2. “别/不要……”と“别/不要……了”
王 学群（東洋大学） 10：05－10：35
以上司会 王 亜新（東洋大学）
休憩（10分間 10：35－10：45）
研究発表3. 中国語の「V成」＋名詞性の語句形式の表す状態義
丸尾 誠（名古屋大学） 10：45－11：15
研究発表4. 空間移動を表す“过”の日中対照研究
蘇 秋韵（大東文化大学大学院） 11：15－11：45
以上司会 竹島 毅（大東文化大学）
昼休み（75分間 11：45－13：00 ※ 駅周辺に食堂街あり）
講演 言語獲得の不思議 — 普遍性と多様性の視点から
大津 由紀雄（明海大学） 13：00－14：00
司会 劉 勳寧（明海大学）
休憩（15分間 14：00－14：15）
研究発表5. 不同意表明に伴う手の動きの性差の日中比較
趙 東玲（金沢大学大学院） 14：15－14：45
研究発表6. 日本語の「さすが」とそれに対応する中国語表現の対照研究
周 世超（鹿児島国際大学大学院） 14：45－15：15
以上司会 安本 真弓（跡見学園女子大学）
休憩（15分間 15：15－15：30）
研究発表7. 色彩語の日中対照研究 — 「黒・白」の基本形と重ね型を中心に—
陳 祥（筑波大学大学院） 15：30－16：00
研究発表8. 日中翻訳—川柳の中国語訳を例に
続 三義（東洋大学） 16：00－16：30
以上司会 時 衛国（山東大学）
閉会の辞 彭 飛（京都外国語大学） 16：30－16：35
会員総会 16：35－17：35

※ 当日、入会申し込み、および年会費の納入も受け付けます。年会費は社会人4,000円、院生2,000円です。

第41回大会（2019年度春季大会）

講演及び研究発表 テーマ・発表者と発表要旨

講演

テーマ：言語獲得の不思議 — 普遍性と多様性の視点から

講演者： 天津由紀雄（明海大学）

講演要旨：

言語獲得には遺伝と環境のいずれもが関与しています。

- ① ヒトしか言語獲得を達成できない【遺伝】
- ② 何語が母語になるかは専ら後天的に決まる【環境】
しかし、ことはそれだけではありません。
- ③ 自然言語であれば何語でも母語になりうる
- ④ 現存する自然言語は 7000 余ある

これらの事実を説明するためには、ことばの普遍性に生物学的な意味づけを与えるとともに、多様性すらも生物学的な制約を受けていると考えるのが自然です。

そう考えるとすると、日本語も、中国語も共通の基盤の上で「対照」することが可能になると同時に、現実の言語獲得に関しても「対照」研究が可能になります。今回の講演では、日本語の「wh 島 (wh-island) 現象」に関する、講演者の実験研究を紹介し、中国語での実験研究に誘いたいと思います。

- (1) 花子は太郎が何を読んだと言いましたか (wh 疑問文)
- (2) 花子は太郎が何を読んだか言いましたか (yes/no 疑問文)

研究発表

1

テーマ：日本語と中国語の指示詞に関する一考察 — 「ア系」と“这”が対応する場合を中心に —

発表者： 日下部直美（星城大学）

要旨：

日本語における指示詞は「コ系」、「ソ系」、「ア系」の三つがあり、中国語においては“这”、“那”の二つがある。中国語教育の現場ではテキストなどにおいて、「コ系」と一部の「ソ系」が“这”と対応し、「ソ系」と「ア系」が“那”と対応すると示されることが多い。先行研究においても、「ソ系」と“这”の対応について考察したものは存在するが、讃井 1988 や木村 2012 においては、「ア系」が“这”と対応する場合も指摘されている。本発表では、中国人日本語学習者における誤用例や会話における用例を挙げながら、それに伴う場面やシチュエーションを設定して考察を行い、設定の追加や変更によって両者の使い分けに変化が生じる点について述べる。特に「ア系」が“这”と対応する場合について、話し手と聞き手の間で「共通理解」となっているか、対象と聞き手が存在しているかという点に着目し、分析を試みる。

2

テーマ： “別/不要……”と“別/不要……了”

発表者： 王学群（東洋大学）

要旨：

周知のように、“別/不要……”と“別/不要……了”構文は、いずれも禁止を表すが、異なる場面に使われるのが一般的である。たとえば、“你不要去。”と“你不要去了。”は、場面の違いによって、予防的な禁止と前提のある禁止と理解される。

本稿では、どのような場合、“別/不要……”構文を使うのか、また、どのような場合、“別/不要……了”構文を使うのかを記述的に考察する。

考察にあたって、まず“別/不要……”と“別/不要……了”の基本的な意味を、先行研究を引用しながら確認する。その上で、品詞類別、動詞の類及び言語環境などに焦点を当て、個々の例文を分析する。それによって、二者の使い分けを明らかにする。

3

テーマ： 中国語の「V成」＋名詞性の語句」形式の表す状態義

発表者： 丸尾誠（名古屋大学）(Maruo Makoto <maruo@lang.nagoya-u.ac.jp>)

要旨：

「このことで君は何でこんなに悩んでるの？」という日本語の「こんなに悩む」の箇所に対する中国語の訳出の仕方に着目してみると、“为了这件事你怎么这么愁?”のような状語を用いた表現も文法的には誤りはないものの、中国語母語話者であれば“为了这件事你怎么愁成这样(/这个样子)?”あるいは無生物主語を用いて“这件事怎么把你愁成这样(/这个样子)?”のように、体詞的な“这样”や“这个样子”を結果補語“成”に後置させて表現するのを好む。本発表では「V成」＋名詞性の語句（Vは動詞・形容詞）の形で表される状態義について、「有界」という概念を援用しつつ考察する。“V成”は主に変化という動的な事象を表す形式であるものの、“坐成一排”や“坐成一片”のような表現は行為の後に形成される形状に対する静的な描写であり、“气成这样”は眼前の事態の描写である。後者については描写対象の様態を通してその程度の高さを表現したものであるが、“慌成一团”や“吵成一片”のようなケースについても、範囲という（抽象的な）形状の観点から、同じく程度の高さを表現する手段の一種であると言える。

4

テーマ： 空間移動を表す“过”の日中対照研究

発表者： 蘇秋韵（大東文化大学大学院 Elsasa SU suqiuyun1004@gmail.com）

要旨：

本稿は空間移動を表す“过”が日本語でどのような対応形式を取るかという問題について検討を行う。北京出身の毛丹青と台湾在住の劉子倩が翻訳した『火花』を言語資料として調査し、その中における“过”の用例を集め、空間移動を表す“过”の用例を中心に、日本語と中国語には空間移動の差異があるという現象の分析を試みた。空間移動のプロセスは起点・経路・着点で構成されるが、用いる空間移動動詞によって、焦点化(前景化)される部分が異なる。本稿は“过”とその移動空間に注目し、例えば、例(1)～(3)“过”の通過空間(経路)はそれぞれ“我身边”“右边练马立野邮电局”“我身边”であり、一方日本語の原文は「僕の横」「右手の練馬立野郵便局」「僕」である。例(3)の「僕」は中国語の

“我身边”に訳されている。管見によれば、日中両言語の空間認知方法における差異がその表現の違いの原因である。

(1) 往常一直站在Pink Salon前拉客的男人，骑着自行车从我身旁掠过。

いつもピンサロの前に立っている呼び込みのお兄さんが、自転車で僕の横を通り過ぎて行った。 (329)

(2) 当走过右边练马立野邮电局后，东方的天空已经泛白了。

右手の練馬立野郵便局を越えた辺りから東の空が白んできた。(337)

(3) 从脚步声判断，神谷先生已从我身边走过，移步到了窗台。

神谷さんが僕を飛び越えて、窓際に移動するのが足音でわかった。(339)

5

テーマ：不同意表明に伴う手の動きの性差の日中比較

発表者：趙東玲（金沢大学大学院）

要旨：

言語行動には身体の動きが伴うことがある。人々は身体の動きによっても情報伝達を行っている。身体の動きは、多くの場合、感情の言語的表出を強調する機能をもつ。趙(2018)は、中国語母語話者(CNS)が不同意を表明する際、それに伴う手の動きの形態と機能を分析した。その結果、「指す」・「置く」・「叩く」・「動かす」の4種の手の動きが観察され、それらの機能は基本的に「指示」と「強調」の2つに分けられることがわかった。趙(2019)はその枠組を基に、手の動きの機能を細分化し、手の動きに関して日本語女性母語話者(JFNS)と中国語女性母語話者(CFNS)の違いを考察した。その結果、相手の領域に侵入する手の動きはJFNSと比べ、CFNSのほうが顕著に多いことがわかった。不同意表明において相手の考えに言及する際、JFNSは手の動きをできるだけ話者自身の領域内に留めようとするが、CFNSは相手の領域を侵して自分の手を動かすという傾向が認められた。これらの研究結果を踏まえ、本発表では性差に注目し、不同意表明において手の動きに性差が存在するのか、存在するとして、日中間に違いがあるのか、違いがある場合、それはどのようなものかを探る。

6

テーマ：日本語の「さすが」とそれに対応する中国語表現の対照研究

発表者：周世超（鹿児島国際大学大学院） zsc810@hotmail.com

要旨：

日本語における「さすが」という評価副詞には、「さすがに」「さすが」「さすがは」「さすがの」などのような形がある。それぞれのマーカーは全く同じ意味を表すというわけではない。また、「さすが」には、名詞述語を修飾する場合、形容詞述語を修飾する場合、動詞述語を修飾する場合、主語を修飾する場合、述語として機能する場合などのような意味・用法を有している。しかし、それぞれの場合において、どんなマーカーを用いられるか、またはどんな意味を表しているのかについて、これまでの研究ではすべてが明らかにされたわけではない。そのため、「さすが」に対応する中国語表現の全容もまだ明らかにされていないといえよう。

本発表では、「さすが」の意味・用法について、「さすがに」の場合、「さすが」の場合、「さすがは」の場合、「さすがの」の場合に分けて、それぞれのマーカーは具体的にどのよ

うな構文的特徴を有するかについて考察し、それぞれの意味について明らかにする。さらに、それぞれの場合において、どのような中国語表現と対応しているかについて明らかにしたい。

7

テーマ： 色彩語の日中対照研究—「黒・白」の基本形と重ね型を中心に—

発表者： 陳祥（筑波大学大学院）

要旨：

日本語と中国語における色彩語を帯びる言語表現は豊かである。両言語における色彩語はよく見られる名詞・形容詞以外に、「反復」による重ね型を表すことも可能である。具体的には、日本語の疊語「黒々」、反復形容詞「白々しい」などの重ね型がある。一方中国語にも類似として、“黑黑的”(hēi hēi de)の「AA的」や“黑黝黝的”(hēi yǒu yǒu de)の「ABB的」などの重ね型がある。

両言語の色彩形容詞は「物の性質や属性を表す」というほぼ同じの性質を持つと考えられる。両言語における形容詞の重ね型は生き生きとした状態が描写できるものの、両言語の重ね型が使われる意味や描写場面などの相違がある。本稿では、蘇(2014)の分類基準を参考にし、両言語における色彩語を帯びる重ね型の意味が基本形と関連していることを明らかにした。また、中国語の重ね型は日本語の重ね型より使用が限定され、視覚に関係がある描写場面しか形容できないと結論付けた。

8

テーマ： 日中翻訳——川柳の中国語訳を例に

発表者： 続三義（東洋大学）

要旨：

日本の第一生命では、「サラリーマン川柳コンクール」を開催し、2018年度で第31回目を迎え、多くの秀作が出た。インターネット上、その優秀な100句に関する中国語訳も出ている。とても面白い訳もあるが、検討すべき訳も少なくない。ここで入手したその中国語訳を分析し、川柳を例に日本語を中国語に訳す時の問題点を指摘したいと思う。

基本的には、日本語原文の理解と中国語訳文の表現の問題に尽きるが、細かく分けると、多くの問題がある。

例えば、日本事情を知らないことからの誤解。番号35の原文の「ふるさとへ 納税だけが 帰省する（井戸乃蛙：旅費が高くて）」に対して、「訳文」は“故乡少牵挂，不到集中交税时，不知回老家。”となっているが、多くの問題がある。

この川柳では、「ふるさと納税」という日本の特別な制度を詠んでいる。この「ふるさと納税」は本人が他所にいる場合、本当は居住地に納税すればいいが、「ふるさと納税」法ではその一定の額の税を自分の故郷に納入して、居住地での減免を申請することができるようになっている。自分が故郷へ帰らなくても、自分の収めた税金は故郷へ帰ることができる、そういったことを詠んだものである。したがって、ここでは、別に“故乡少牵挂”「故郷に対してあまり気に掛けない」とか、“不到集中交税时，不知回老家。”「集中納税の時期にならないと故郷に帰ることを知らない」とかの意味ではない。

本発表では、いくつかの例を挙げ、その問題点を分析する。